

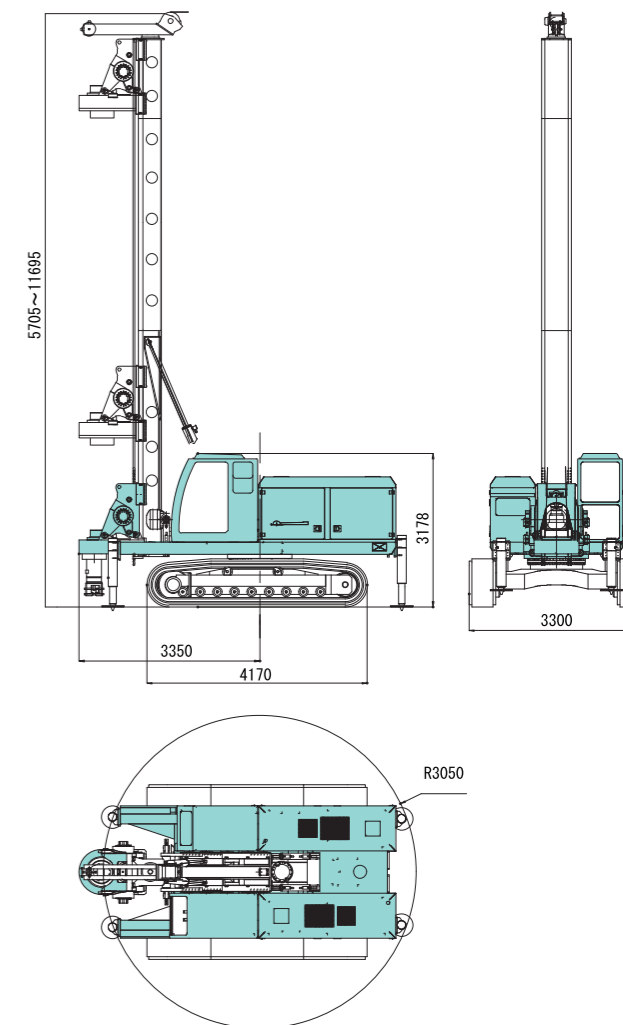
鋼管杭回転圧入工法

概要

先端部に切刃及び、らせん翼を取り付けた小口径鋼管杭を回転して地中に貫入させます。この工法は、低騒音・低振動・無排土施工なので環境にやさしく、しかも狭い敷地や狭い搬入路でも施工が可能です。翼部が先端支持力に寄与するので高い鉛直支持力が期待でき、経済的で高品質な杭を提供できます。また、現場継手には、溶接継手と機械式継手の2タイプを用意しております。

特長

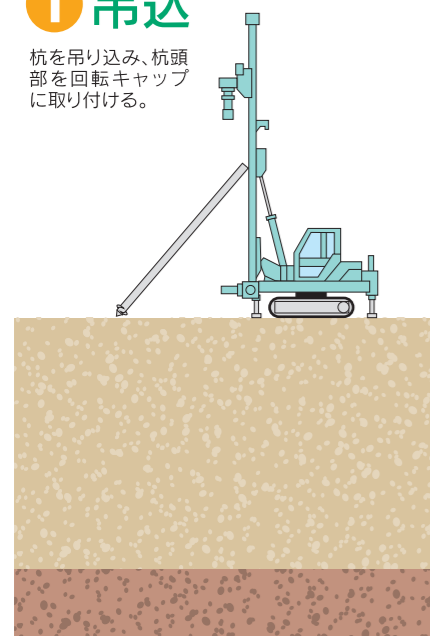
- 高い鉛直支持力。
経済設計(上杭は、厚さや材質を変えることにより、杭頭曲げ耐力の向上が図れます。)
- 幅広い支持層の選択。
砂質地盤・礫質地盤・粘土質地盤に適用(先端平均N値 ≥ 5)
- 低騒音・低振動・無排土施工。
先端部に切刃及び翼を取り付けて回転貫入(水やセメントミルクを使用しません。)
- 狭隘施工。(狭い敷地・狭い搬入路でも施工可能)
- 条件にあった現場継手の選択。
溶接継手と機械式継手の2タイプを用意
- 杭芯ズレの防止。(先端の三角形切刃で精度向上)
- 確実な打止め管理。(リアルタイムで施工記録を確認)
- 逆回転で引抜き可能。(撤去作業が容易で、しかも再利用が可能)



施工順序

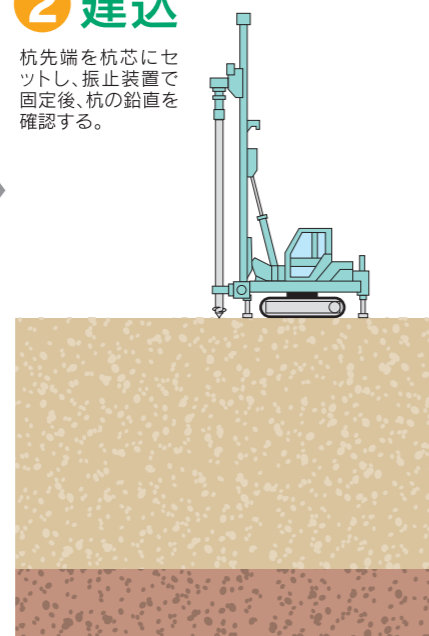
① 吊込

杭を吊り込み、杭頭部を回転キャップに取り付ける。



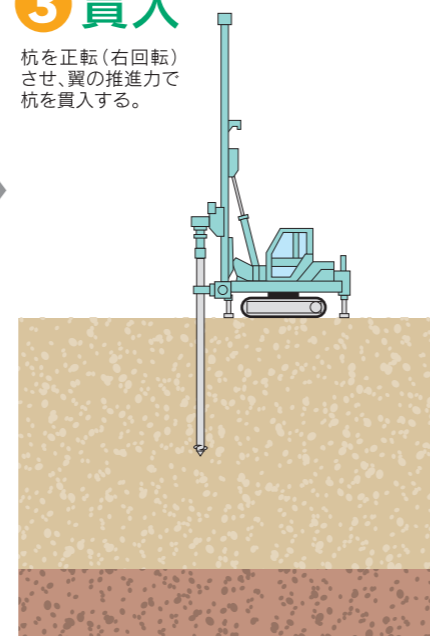
② 建込

杭先端を杭芯にセットし、振止装置で固定後、杭の鉛直を確認する。



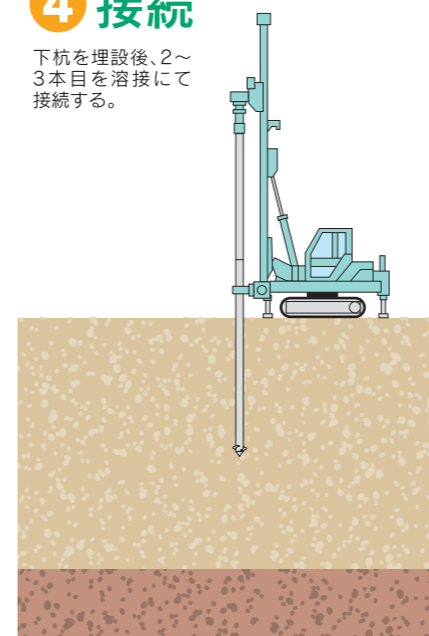
③ 貫入

杭を正転(右回転)させ、翼の推進力で杭を貫入する。



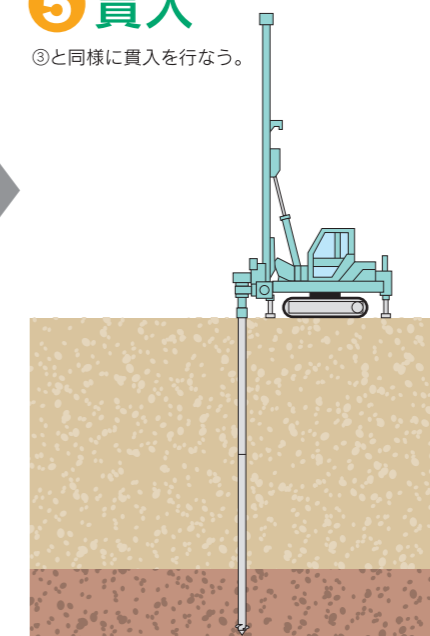
④ 接続

下杭を埋設後、2~3本目を溶接にて接続する。



⑤ 貫入

③と同様に貫入を行なう。



⑥ 完了

所定の深度まで、回転貫入させ打止とし、キャップを外し、施工完了。

